



# Cisco Nexus 9000v のトラブルシューティング

この章は、次の項で構成されています。

- [すべてのハイパーバイザに共通の問題](#) (1 ページ)
- [ESXi ハイパーバイザー](#) (2 ページ)
- [KVM または QEMU ハイパーバイザ](#) (5 ページ)
- [VirtualBox](#) (5 ページ)
- [L2FWDER のトラブルシューティング](#) (6 ページ)
- [VM ログの収集](#) (15 ページ)

## すべてのハイパーバイザに共通の問題

### VM が「loader>」プロンプトに落ちたときに起動する方法

通常、初回の起動は成功します。ただし、VM のプロビジョニング方法によっては、システムブートが失敗し、VGA コンソールまたはシリアルコンソールに「loader>」プロンプトが表示される場合があります。

例：

```
loader > dir
Setting listing for bootflash:
Number of devices detected by BIOS is 1
Number of devices detected by BIOS is 1
Number of devices detected by BIOS is 1
Going to print files for device bootflash:
.rpmstore
nxos.7.9.3.15.9.66. bin
Number of devices detected by BIOS is 1
Number of devices detected by BIOS is 1
Number of devices detected by BIOS is 1
Clearing listing for bootflash:
```

```
loader >
```

ブートを続行するには、「loader>」プロンプトで **boot nxos.7.0.3.I5.0.66.bin** コマンドを入力します。

## VM が「loader>」プロンプトにドロップしないようにする方法

リロード/シャットダウン後に「loader>」プロンプトにドロップしないようにするには、(POAP インターフェイスのセットアップの後に) Cisco Nexus 9000v をセットアップしたらすぐ、システムでブートイメージを設定する必要があります。

例：

```
config t
    boot nxos n9000-dk9.7.0.3.I2.0.454.bin
copy running starting
```

## ESXi ハイパーバイザー

### SATA コントローラを使用して Cisco Nexus 9000v の起動プロセスを高速化する方法

Cisco Nexus 9000v は、ハイパーバイザーでハードウェアプラットフォームと同じイメージブートを使用します。ESXi 5.5 以降のバージョンは、Cisco Nexus 9000v の起動時間を高速化するために使用できる ESXi サーバ上の SATA コントローラをサポートしています。SATA コントローラを備えた VM を作成するには、通常の ESXi VM 作成手順が適用されます。ただし、VM の正常な起動には以下が必要です。

- このサポートにアクセスするには、VMware vSphere Web Client が必要です。
- vmdk イメージを ESXi サーバーにダウンロードします。

vmkfstools (ESXi サーバーで使用可能なコマンドラインツール) を使用して、このモノリス型の vmdk を VMware ネイティブディスクタイプに変換します。

例：

```
vmkfstools -i nexus9000v-final.7.0.3.I5.0.66.vmdk
nexus9000v-final.7.0.3.I5.0.66-esx.vmdk)
```

- ESXi 5.5 (またはそれ以降) および VM バージョン 10 と互換性のある VM を作成します。
- SATA コントローラを追加します。
- SATA コントローラを選択した状態で既存のディスクを追加します。
- ESXi VM の作成手順に従い、VM 起動プロセスを続行します。

## シリアル コンソールから「loader>」プロンプトにアクセスする方法

EFI BIOS は、デフォルトで VM コンソールへのすべての入出力を設定します。VM が「loader>」プロンプトにドロップしたら、vSphere クライアントに移動して「loader>」にアクセスして、別のイメージを起動する必要があります。この動作を変更するには、ESXi VM 編集モードで追加の構成を追加します。

次のいずれかの方法を使用できます。

- vSphere クライアントの [構成パラメーター (Configuration Parameters) ] ウィンドウで、構成に 1 行追加します ([設定の編集 (Edit Settings) ]>[VM オプション (VM Options) ]>[詳細 (Advanced) ]>[構成の編集 (Edit Configuration) ]) 。
- VM が作成されたら、.vmx ファイルに `efi.serialconsole.enabled = "TRUE"` を追加します。

## EFI シリアル コンソールが有効になっていない場合に ESXi 上のスイッチに接続する方法

ESXi で、VM コンソールを監視しているときに、「Leaving grub land」と表示される場合があります。この後は、何も起きていないように見えますが、通信は設定したシリアルポートに転送されています。

```
Read length 646737920
Hd5 for size 646737920
  [Initrd, addr=0x59236000, size=0x268c70000]

segment header
length: 4, vendor: 16 flags: 4, loadaddr: 2500000, image len: 600 memory length
: 600
Reading data for vendor seg . Length 1536

Image length: 651842048 bytes

image hash: d411d638 b48101f6 2e5e7f0b f0130b67
Leaving grub land
```

スイッチに接続するには、ターミナルを開いて、`telnet <esxi host> <port number>` コマンドを入力する必要があります。

```
rahushen@rtp-ads-150->
rahushen@rtp-ads-150->telnet fe-ucs-dt7 7000
Trying 10.122.84.213...
Connected to fe-ucs-dt7.
Escape character is '^]'.

User Access Verification
switch login: admin
Password :
Cisco NX-OS Software
Copyright (c) 2002-2015, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Cisco Nexus 9000v software ("Cisco Nexus 9000v") and related documentation,
files or other reference materials ("Documentation") are
the proprietary property and confidential information of Cisco
```

Systems, Inc. ("Cisco") and are protected, without limitation, pursuant to United States and International copyright and trademark laws in the applicable jurisdiction which provide civil and criminal penalties for copying or distribution without Cisco's authorization.

Any use or disclosure, in whole or in part, of the Cisco Nexus 9000v Software or Documentation to any third party for any purposes is expressly prohibited except as otherwise authorized by Cisco in writing.

The copyrights to certain works contained herein are owned by other third parties and are used and distributed under license. Some parts of this software may be covered under the GNU Public License or the GNU Lesser General Public License. A copy of each such license is available at

<http://www.gnu.org/licenses/gpl.html> and

<http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html>

```
*****
* Cisco Nexus 9000v is strictly limited to use for evaluation, demonstration *
* and NX-OS education. Cisco Nexus 9000v is provided as-is and is not supported *
* by Cisco's Technical Advisory Center. Any use or disclosure, in whole *
* or in part of the Cisco Nexus 9000v Software or Documentation to any third *
* party for any purposes is expressly prohibited except as otherwise *
* authorized by Cisco in writing. *
*****
```

switch#

## Cisco Nexus 9000v が起動するとすぐに vCenter または UCS サーバーの接続が失われる



**注意** vNIC を vSwitch またはブリッジに接続する場合、ネットワーク接続が正しくないと、ハイパーバイザー サーバーまたは ESXi 上の vCenter への接続が失われることがあります。

Cisco Nexus 9000v は、ネットワーキングのために KVM/QMEU コマンドラインまたは ESXi のグラフィカル表現から入力された vNIC ユーザーを、ハイパーバイザーサーバ内の外部または内部でネットワーキングに使用します。最初の NIC は、常に Cisco Nexus 9000v 管理インターフェイスとして使用されます。後続の NIC は、e1/1、e1/2、および e1/9 までのように、データポートとして使用されます。

Cisco Nexus 9000v VM の最初の NIC のみを、ラボの LAN 物理スイッチまたはラボの物理スイッチに直接接続する vSwitch (VM ネットワーク) に管理インターフェイスとして接続します (つまり、データポート vNIC を物理スイッチに接続して、サーバー管理接続と競合させてはなりません)。

## Cisco Nexus 9000v のデータポートが ESXi サーバーでトラフィックを渡していない

スムーズな操作を確保するには、vSwitch の特定の構成設定を有効にする必要があります。

1. Cisco Nexus 9000v に接続する vSwitch のすべてのインスタンスが「無差別モード (Promiscuous Mode)」 = 「受け入れ (Accept)」になっていて、UCS サーバを指している

ことを確認します。このオプションには、vSphere Client から [構成 (Configuration) ] > [プロパティ (Properties) ] > [編集 (Edit) ] でアクセスできます。

2. vSwitch のすべてのインスタンスがすべての VLAN を通過することを確認します。このオプションには、vSphere Client から [構成 (Configuration) ] > [プロパティ (Properties) ] > [編集 (Edit) ] でアクセスできます。

## KVM または QEMU ハイパーバイザ

### KVM または QEMU ハイパーバイザでのマルチキャスト

Cisco Nexus 9000v マルチキャスト機能はブロードキャストとしてサポートされています。この機能を正しく動作させるには、この環境のすべてのブリッジインターフェイスで IGMP マルチキャスト スヌーピングを無効にする必要があります。

次の例は、Linux プロンプトから vxlan\_br1、vxlan\_br2、vxlan\_br3、および vxlan\_br4 を無効にする方法を示しています。

```
echo 0 > /sys/devices/virtual/net/vxlan_br1/bridge/multicast_snooping
echo 0 > /sys/devices/virtual/net/vxlan_br2/bridge/multicast_snooping
echo 0 > /sys/devices/virtual/net/vxlan_br3/bridge/multicast_snooping
echo 0 > /sys/devices/virtual/net/vxlan_br4/bridge/multicast_snooping
```

## VirtualBox

### VirtualBox または Vagrant でのネットワークング

VirtualBox または Vagrant でデータプレーンインターフェイスを使用するには、次のことを確認してください。

- インターフェイスが「無差別 (promiscuous) 」モードである必要があります。  
VirtualBox ネットワーク設定で、無差別モードで「すべて許可」を選択します。
- **show interface mac** コマンドを使用して、トポロジ内の Cisco Nexus 9000v のすべてのインスタンスに一意的な MAC アドレスがあることを確認します。

### VM が VirtualBox/Vagrant で起動できない

次の点を確認します。

- メモリやvCPUなどの十分なリソースが使用可能であることを確認します。PCまたはサーバーで大量のメモリを消費するすべてのアプリケーションを閉じます。使用可能な空きメモリを確認してください。
- VirtualBox GUI に移動し、Vagrant ソフトウェアから作成された対応する VM（Vagrant 構成ファイルで指定されたタグ付きの長い名前）または vmdk から手動で作成された VM をオフにします。
- 「シリアル コンソール」が正しくプロビジョニングされていることを確認します。
- ブロック ディスク タイプをチェックし、SATA コントローラを使用していることを確認します。
- VM をもう一度オンにします。「loader>」プロンプトとともに VGA コンソールが表示されます。「VMが『loader>』プロンプトに落ちたときに起動する方法」のトラブルシューティング トピックに従い、シリアル コンソールから起動プロセスを監視します。

## L2FWDER のトラブルシューティング

### 概要

L2fwder は、Cisco Nexus 9000v の集中型転送コンポーネントであり、次のことを実行します。

- vmnic との間での Rx および Tx パケットの送受信
- L2 スイッチングまたはブリッジング
  - MAC ラーニング
    - パケット パスで学習したダイナミック MAC
    - MTS 通知を介して L2FM から学習した静的 MAC
      - VMAC
      - GW-MAC
  - スイッチング
    - 一連の潜在的なブリッジ ドメインの維持
      - 各ブリッジ ドメインのインターフェイスの追跡
        - 転送状態で
        - STP 状態としてのブロック状態で
    - ブリッジ ドメインベースの MAC テーブルの宛先 MAC に基づくパケットのスイッチング

- ユニキャスト トラフィック
- BUM トラフィック
- VXLAN カプセル化解除
- レイヤ 3 処理用のパケットを `kstack` および `netstack` にパンティングする
- VXLAN のデキャップ
  - NVE 処理のために最初のパケットを `kstack/netstack` にパンティングすることによる NVE ピア学習。
  - リモート VTEP インターフェイスに対するリモート MAC の学習。
  - ARP がリモートホストルートを学習する際の、レイヤ 3 ゲートウェイの場合、ARP パケットの `kstack/netstack` へのパンティング。
- VXLAN カプセル化
  - `netstack` およびパケット マネージャによって実行されます。(sup-generated パケットの場合、ハードウェア、つまり Nexus 9000 プラットフォームでの処理に似ています)。
- VXLAN BGP EVPN
  - Cisco Nexus 9000v では、MAC ルートは L2FWDER によって L2FM を置き換えることによって L2RIB に直接生成されますが、HMM は Cisco Nexus 9000v の場合と同様に MAC IP ルートを L2RIB に生成し続けます。

## L2FWDER のコマンド

一般的なコマンド	<b>debug l2fwder ?</b>	
	<b>err</b>	コントロールおよびデータパス エラー。
	<b>fdb</b>	fdb を介したイベント。
	<b>ha</b>	システムマネージャからのイベント。
	<b>ipc</b>	ipc を介したイベント。
	<b>packet</b>	パケット転送の情報。
	<b>pktrace</b>	パケットトレース。
	<b>vxlan</b>	VXLAN プラグイン。

clear コマンド	clear mac address-table datapath dynamic
	clear mac address-table datapath static

## RX/TX パスのトラブルシューティング

- Rx パス

vmnic からの正常なピックアップを監視して、kstack/netstack へ送信するログ。

```
l2fwder_get_data_with_wrr(515):Packet received over Driver type 0
l2fwder_input(67):In 0x0800 78 0 5254.005b.cf97 -> 5254.004c.4e42 Eth1/4
l2fwder_ethernet_output(196):Driver TUN
l2fwder_action_send_to_stack(865):l2fwder_action_send_to_stack: tx to ifindex 0 iod
8
l2fwder_ethernet_output(304):l2fwder_ethernet_output: driver_type[2] pktQ count[1]
```

- Tx パス

tuntap からの正常なピックアップを監視して、kstack/netstack へ送信するログ。

```
l2fwder_get_data_with_wrr(515):Packet received over Driver type 2
l2fwder_ethernet_output(199):Driver ETH
l2fwder_ethernet_output(251):Out 0x0800 78 0 5254.004c.4e42 -> 5254.005b.cf97
Eth1/4
l2fwder_ethernet_output(304):l2fwder_ethernet_output: driver_type[0] pktQ count[1]
```

- 既知のユニキャスト MAC 転送

```
l2fwder_action_process(934):l2fwder_action_process: process action 1
l2fwder_action_tx_unicast(796):l2fwder_action_tx_unicast: tx to ifindex 1a000600 iod
8 h_type 0
l2fwder_ethernet_output(199):Driver ETH
```

- MAC データベース (FDB) ルックアップに関連していて、正常なルックアップ (BUM トラフィック以外) を記録するログ。

```
l2fwder_get_mac_lookup_fwd_info(857):Lookup Result is * 0xPo200(1) ret is 1
l2fwder_get_mac_lookup_fwd_info(897):action ucast
```

- BUM トラフィックの MAC データベース (FDB) ルックアップ

## MAC 学習のトラブルシューティング

- L2FWDER の MAC データベースをチェックするコマンド:



```
switch# show system internal l2fwder mac
```

```
Legend:
```

```
* - primary entry, G - Gateway MAC, (R) - Routed MAC, O - Overlay MAC
age - seconds since last seen,+ - primary entry using vPC Peer-Link,
(T) - True, (F) - False, C - ControlPlane MAC
```

VLAN	MAC Address	Type	age	Secure	NTFY	Ports
G 100	5254.004c.4e42	static	-	F	F	sup-eth1 (R)
G 200	5254.004c.4e42	static	-	F	F	sup-eth1 (R)
* 200	5254.00c5.9daf	dynamic	00:07:45	F	F	Po200

- 静的 MAC 学習をチェックするイベント履歴コマンド:

```
Event:E_DEBUG, length:73, at 930108 usecs after Wed Sep 14 04:13:14 2016
[117] [23935]: Learning SUCCESS for static 1 mac 52:54:00:c5:9d:af bd 200
```

- 動的 MAC 学習のデバッグ ログ チェック :

```
l2fwder_fdb_insert_entry(231):FDB insert for MAC 52:54:00:c5:9d:af bd 200 total
entries 1
```

## レイヤ2/レイヤ3トラフィックの l2fwder/pktnmgr/netstack でのパケットドロップのトラブルシューティング

- L2FWDER グローバル カウンタ :

```
switch(config)# show l2fwder statistics
```

```
Decap stats:
```

	RX	DROP
DCE_CORE	0	0
2 dot1q decap	0	0
Sub-interface	0	0
Switchport	140940	0
Undefined	210758	0
Stack	635671	0
1 dot1q decap	0	0

```

          VXLAN          0          0
    PORT_CHANNEL 105986          0

```

## Encap stats:

```

          TX      DROP
          DCE_CORE          0          0
    2 dot1q decap          0          0
    Sub-interface          0          0
          Switchport 482493          0
          Undefined 211186          0
          Stack          0          0
    1 dot1q decap          0          0
          VXLAN          0          0
    PORT_CHANNEL          0          0

```

## Switching stats:

```

    Unicast      860
    Flood      29372
    Multicast      0
    Punt      29615
    Drop          0
    LTL Packet Count      0

```

## Punt stats:

```

    Packets punted 351004

```

## SMM stats:

```

MAC              Eth-type  Hit-count
=====
    0180.c200.0014  0x0000          0
    0180.c200.0015  0x0000          0
    0100.0cdf.dfd  0x0000          0

```

```
ffff.ffff.ffff 0x0806 29078
0180.c200.0041 0x22f4 0
0100.0ccc.cccc 0x0000 13963
0180.c200.0002 0x0000 0
0180.c200.0003 0x0000 0
0180.c200.000e 0x0000 0
0180.c200.0000 0x0000 1652
0100.0ccc.cccd 0x0000 97087
0001.0203.0405 0x0000 1604
0000.0000.0000 0x0000 0
```

```
Dropped 31
Consumed 115690
No Action 29070
lookup fail 206781
```

## RMM stats:

```
Dropped 0
Consumed 205699
Rate Limit Dropped 0
```

## VACL stats:

```
sw-bd VACL Hit-count
```

```
=====
```

```
Dropped 0
Consumed 0
Copy+Fwd 0
No Action 0
```

## Port-Channel stats:

```
VSL Drop Packets 0
```

```
MAC Learning Disabled stats:
  Packets recieved on Peer-Link:MAC Learning Disabled      313
```

```
Action Flood Stats:
  Port-Channel Split-Horizon Packets      48
  VSL Drop Packets                          0
```

Forwarding state of ports in bridge domains

```
switch# show system internal l2fwder bd
```

Following is the BD State:-

BD_ID	State	Enh_Fwd	Mode
1	1	0	0

List of all IODs: 9

List of BLK IODs: 8

BD_ID	State	Enh_Fwd	Mode
100	0	0	0

List of all IODs: 5 7 16

List of BLK IODs: 16

## VXLAN BGP EVPN のトラブルシューティング

Cisco Nexus 9000v では、L2FWDER はエミュレートされたデータプレーンであり、送信元の MAC 学習を通じて接続されたホストの MAC 学習を担当します。



(注) BGP EVPN の詳細については、*Cisco 9000 Series NX-OS VXLAN Configuration Guide* を参照してください。

このセクションの例では、次の 2 つの VTEP エンドポイントを考慮しています。

- VLAN 1001 および 1002 にそれぞれ MAC アドレス 2222.3333.4444、000c.2980.d40a を有するホストを持つ Leaf0 (VTEP 1)。
- VLAN 1001 および 1002 にそれぞれ MAC アドレス 000c.29b9.1375、000c.29b9.1375 を有するホストを持つ Leaf1 (VTEP 2)。

次の例は、2つの VTEP エンドポイント間の MAC および MAC IP ルート交換を示しています。

#### • Leaf0 のローカル MAC および MAC IP ルート

- 送信元 MAC 学習を表示するコマンド：

```
leaf0# show sys int l2fwder mac | inc dynamic
* 1002 000c.2980.d40a dynamic 01:13:40 F F Eth1/2
* 1001 2222.3333.4444 dynamic 00:58:38 F F Eth1/2
```

- L2FWDER は、学習したエンドホスト MAC を L2RIB テーブルの MAC ルートとして生成します。L2RIB で学習された MAC ルートを表示するコマンド：

```
leaf0# show l2route mac all | inc Local

Flags -(Rmac):Router MAC (Stt):Static (L):Local (R):Remote (V):vPC link
1001 2222.3333.4444 Local L, 0 Eth1/2
1002 000c.2980.d40a Local L, 0 Eth1/2
```

- L2FWDER は mac ルートの生成を担当しますが、MAC IP ルート情報は L2RIB のホストモビリティマネージャー (HMM) によって生成されます。L2RIB の MAC IP ルート情報を表示するコマンドは次のとおりです。

```
switch# sh l2route mac-ip all | inc Local
Flags -(Rmac):Router MAC (Stt):Static (L):Local (R):Remote (V):vPC link
1001 2222.3333.4444 HMM -- 0 5.1.1.1 Local
1002 000c.2980.d40a HMM -- 0 5.2.1.1 Local
```

- MAC IP ルート情報は、L2RIB の Host Mobility Manager (HMM) によって生成されます。MAC IP ルート情報を表示するコマンドは次のとおりです。

```
leaf0# show l2route mac-ip all | inc Local

Flags -(Rmac):Router MAC (Stt):Static (L):Local (R):Remote (V):vPC link
1001 2222.3333.4444 HMM -- 0 5.1.1.1 Local
1002 000c.2980.d40a HMM -- 0 5.2.1.1 Local
```

- VNI ごとに BGP が学習したローカル MAC および MAC IP ルートを表示するコマンドは次のとおりです。

```
leaf1# show bgp l2vpn evpn vni-id 5001
BGP routing table information for VRF default, address family L2VPN EVPN

BGP table version is 79, local router ID is 6.1.1.1

Status: s-suppressed, x-deleted, S-stale, d-dampened, h-history, *-valid, >-best

Path type: i-internal, e-external, c-confed, l-local, a-aggregate, r-redist,
I-injected
Origin codes: i - IGP, e - EGP, ? - incomplete, | - multipath, & - backup
*>l[2]:[0]:[0]:[48]:[2222.3333.4444]:[0]:[0.0.0.0]/216
6.1.1.1
```

```

100          32768 i
*>i[2]:[0]:[0]:[48]:[2222.3333.4444]:[32]:[5.1.1.1]/272
6.1.1.1
100          32768 i

```

#### • Leaf1 のリモート MAC および MAC IP ルート

- リモート VTEP では、MAC および MAC IP ルート情報が BGP を介して L2RIB に流れ込み、最後に L2FWDER がエンドホストの MAC 到達可能性情報を受信します。

```

leaf1# show bgp l2vpn evpn vni-id 5001
BGP routing table information for VRF default, address family L2VPN EVPN
BGP table version is 53, local router ID is 6.2.2.2
Status: s-suppressed, x-deleted, S-stale, d-dampened, h-history, *-valid, >-best
Path type: i-internal, e-external, c-confed, l-local, a-aggregate, r-redist, I-i
njected
Origin codes: i - IGP, e - EGP, ? - incomplete, | - multipath, & - backup

   Network          Next Hop          Metric      LocPrf      Weight
Path
*>i[2]:[0]:[0]:[48]:[2222.3333.4444]:[0]:[0.0.0.0]/216
   6.1.1.1
           100          0 i
*>i[2]:[0]:[0]:[48]:[2222.3333.4444]:[32]:[5.1.1.1]/272
   6.1.1.1
           100          0 i

leaf1# show l2route mac all | inc BGP
1001      2222.3333.4444 BGP   SplRcv      0           6.1.1.1
1002      000c.2980.d40a BGP   SplRcv      0           6.1.1.1

leaf1# show l2route mac-ip all | inc BGP
1001      2222.3333.4444 BGP   --          0           5.1.1.1      6.1.1.1
1002      000c.2980.d40a BGP   --          0           5.2.1.1      6.1.1.1

leaf1# show system internal l2fwder mac | inc nve-peer
* 1002    000c.2980.d40a  static -          F          F (0x47000001) nve-peer1
6.1.1.1
* 1001    2222.3333.4444  static -          F          F (0x47000001) nve-peer1
6.1.1.1

```

## VXLAN Encap/Decap のトラブルシューティング

他のセクションで説明されている通常のデータパスデバッグに加えて、以下が追加されます。

NVE ピアのプロビジョニングと学習をチェックする NVE マネージャ コマンド。	<b>show nve vni</b>
	<b>show nve peers all</b>
	<b>show ip overlay-traffic</b>

## コマンド

カウンター ゲージ コマンド。	<b>show l2fwder statistics</b>
	<b>show system internal pktmgr stats</b>
	<b>show ip traffic</b>
データパスのパケットをキャプチャするデバッグ コマンド。	<b>debug l2fwder [packet   pktrace   error]</b>
	<b>debug pktmgr [frame   pkt-errors   data   tunnel]</b>
	<b>debug ip packet</b>
	<b>tcpdump</b> (注) (vmnic でデバッグします)。

## VM ログの収集

Cisco Nexus 9000v は、物理ハードウェア プラットフォームのすべてのコードを使用します。したがって、ハードウェア プラットフォームから収集されたすべてのロギング ファイルとコア ファイルが Cisco Nexus 9000v システムに適用されます。問題が発生した場合は、VM のスナップショットを作成するか、.vmdk または .qcow2 ファイルのコピーを作成して、さらに分析することをお勧めします。

